

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）は、プレカット工場での仕入れ、在庫、出荷管理を強化する。そのため年内をめどに、仕入れ先に対して製造時期、場所などの情報を明示できるようにバーコードラベルなどの添付を取引条件として求めていくことを21日に明らかにした。

ポラテックはプレカ

ット最大手で、構造材加工能力は5工場で17万6000坪に達する。工場へのロボット設置を積極的に推進しており、現在30基のロボットが名古屋工場を含め6工場で稼働している。

生産管理の効率化を進めるうえで、木材などの加工資材についてもデータ管理を徹底す

る。バーコードなどによりメーカーごとの製造履歴を確認できるようにし、自動倉庫搬出時に木材をクランプす

る時点で切断されない場所にバーコードラベルを貼付する仕組みを導入する。

理を徹底し、仕入れのAI活用などにもつなげていく考えだ。

既に欧州、北米の構造用集成材メーカーや難しい中小工場に対し

てはバーコードラベルの支給などの方法を提案して約100社の仕入れ先への対応徹底を図り、在庫や棚卸し業務の効率化につなげる。「6工場の生産状況をコックピット方式で見える化し、AIを活用して仕入れなどに生かしていく」（北大路専務）。合板などはメーカーの印字を読み取れる装置を導入していく計画で、2020年4月からの運用を計画している。

木材業界では、大手製材会社や集成材メーカーが工場での生産履

歴管理などを行い、一部ではトレーサビリティの確認もできるが、業界で統一した規格がなく、それぞれがクローズドな仕組みで運用されている。プレカット最大手のポラテ

ックがトレーサビリティ情報の表示を求めていくことで、木材業界内でもトレーサビリティ確保へデータ管理の重要性が認知されていくことにつながりそうだ。

仕入れ先にトレーサビリティ明示要求

製造時の情報開示で効率化へ

ポラテック

場生産の省力化が進んでいる一方、木材の在庫棚卸しなどは目視で行っている。そのため仕入れ、在庫管理、出荷情報などもデータ管

国内大手の工場では、出荷時にバーコードなどで製造情報を貼付または印字しており、北大路康信専務は「間柱やタルキなどの小割材

歴管理などを行い、一部ではトレーサビリティの確認もできるが、業界で統一した規格がなく、それぞれがクローズドな仕組みで運用されている。プレカット最大手のポラテ

ックがトレーサビリティ情報の表示を求めていくことで、木材業界内でもトレーサビリティ確保へデータ管理の重要性が認知されていくことにつながりそうだ。